

Desert Wind (No. 2)

Las Vegas Japanese Community Church

JANURARY 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

「年の初めに思うべきこと」(出エジプト12:1-51)

(LVJCC 牧師：鶴田健次)

神の民イスラエルは、新しい年を迎えるたびに、遠い昔、彼らの先祖たちが経験したエジプトでの出来事に目を向け、自分たちの立場を再確認します。神は死の使いをエジプトに送ってエジプト人を討ち、彼らの先祖たちをエジプトでの奴隷状態から解放して下さったのです。この事実は私たちクリスチャンの経験にも当てはまることで、私たちは新しい年を迎えるたびに、いくつかの大切な事実を再確認すべきです。

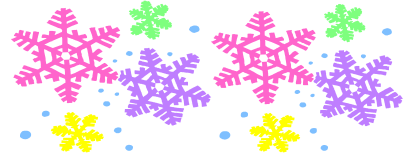
まず、第一に大切な事は、自分が何者であるかを確認することです。私たちは束縛から解放された者です。イスラエルの民の場合は文字通りエジプトでの奴隷状態からの解放でしたが、私たちの場合はサタンによる霊的な奴隷状態からの解放です。神はそのために人類救済の計画を立て、私たちを救い出されたのです。神は私たちが苦悩と絶望の中に留まることを願われませんでした。イスラエルを救う者としてモーセを遣わされた神は、私たちを永遠の地獄と

いう絶望の暗闇から救い出し、光の中を歩くようにと、救い主キリストを遣わされたのです。イスラエルの民には自分たちを救い出す力がありませんでした。同じように、私たちにもその力がありません。そこで神は、人々を束縛から解放し、神の子としての自由を与えるために、一人の人を送られたのです。

第二に大切な事は、神が私たちのために何をされたかを思い出すことです。出エジプトの際、彼らに示された事は非常に重要な事でした。神がエジプト中のういごの命を取られるとき、その災難がイスラエルの家に及ばないように、イスラエルの全家は家の入り口の二本の柱とかもいとに小羊の血を塗るようにとの神の指示を受けました。それによって、神がエジプト中のういごの命を取るために家々を巡られたとき、イスラエル人の家々の入り口に塗られた小羊の血を見て、そこを過ぎ越して行かれたのです。これはイエス・キリストの十字架を予表する出来事です。私たちは、私たちの贖いが神の小羊イエス・キリストの血によるものである

ことを覚えなければなりません。この血によらなければ、神の裁きが下されるとき、私たちはこの世と共に滅び去ることになるのです。

第三に大切な事は、私たちが新しい世界に新しい人生を築くことです。イスラエルの先祖たちは、その過ぎ越しの出来事の後、自分たちの持ち物をすべて携えてエジプトを後にし、神と共に、乳と蜜との流れる新しい地に向かいました。彼らは様々な試練に遭い、多くの間違いや失敗を経験しますが、神の助けと導きにより、やがて約束の地に入ります。新年を迎え、神は私たちが新しい世界に新しい人生を築くことを願っておられます。神が用意された新しい年に、神の導きに従って生きることにより、最高の人生を築き上げたいものです。



証し

伊藤幹子

イエス様に出会うまでの私の人生はまさに真っ暗闇でした。まじめな両親と姉の下で育った私は高校3年生頃から目的を失い、自分に自信も無くまじめに生きて行く事よりも今を楽しむ事が自分らしいと思うようになりました。問題にあたると逃げることしかせず、その頃から立派な大人になてなれない、と決めつける様になりました。

高校卒業後、28歳で渡米するまで、その場しのぎで遊ぶことが第一優先という生活を送りました。24歳の時にガンで父を突然失いましたが母をサポートするのも束の間、生活はアルバイトと遊びの繰り返しでした。27歳の時、何か新しいことをしようと友達とLAへの留学を決めました。出発2ヶ月前に妊娠が発覚し、付き合いだった彼と相談の結果、LAでの生活を一緒に始めることになりました。家族の心配、反対を押し切ったことでした。渡米7ヶ月後に長女を出産し、彼女が3ヶ月の頃、生活を楽しむためにラスベガスに移り、その月に結婚しました。

翌年、2人目を妊娠しましたが、夫との生活は幸せとはほど遠い辛いものでした。仕事も殆どせず、子育ても家のことも全く手伝わず、一人好きな時間に遊びに行き、寝て起きる生活をしていました。その為ケンカは絶えず、暴力を受けることも多々ありました。辛い生活の中、今まで自分自身、身勝手に生きてきたことを思い出し、それを夫の中に見る事が出来ました。そして初めて自分のしてきた選択や、行動

を心から恥じました。こうなってしまったことは自分に責任があるということに気が付き、子供の為にもなんとか家族を一つにしようと試みました。話す人もいなかった為、日本人教会へ電話をしました。しかし教会へは一度行き、そのあと2人目の妊娠を機に子供と2人でフロリダに住む夫の両親の元へ移りました。理由は夫では頼りにならないため、フロリダで出産するまでというものでした。次女を出産し翌月ラスベガスへ戻ると夫は仕事もクビになりコカインを常習するようになっていました。子供達に手を出す事はありませんでしたが、私に対する暴力はひどくなりました。精神的に限界を感じて彼から離れることを決めました。

2005年9月に家を出て、着いたホテルから母とくみこさんに電話をし、次の日からくみこさんの家でお世話になることになり、夫に対してリトレーニングオーダーを取りました。くみこさん夫妻がその時に私を支えてくださり、神様の思いを伝えてくださいました。今まで私が通ってきた辛い日々も、イエス様は守ってくださっていたことを悟りました。リトレーニングオーダーを延長する裁判へくみこさん夫妻と出席した日、夫は一人で来ていました。ドラッグをしていたことは否定出来ず、オーダーは3ヶ月延長が決定しました。私たちを取り戻したかった彼は頭を抱え込みテーブルにつけていました。それは私が見た最後の彼の姿でした。2006年2月に夫はドラッグのオーバードースによって亡くなりまし

た。それから2ヶ月程たったイースターの日に私は洗礼を受けました。

神様は私をどん底から救って下さっただけでなく、私と子供達に考えても見えないような道を備えて下さっていました。暗く辛い生活の中で、私に光を見せて下さりました。こんな私でも神様は許して下さい、想像すら出来なかった幸せと安心まで与えて下さりました。イエス様の十字架を理解した時、私の今までの人生の謎が全て解き明かされました。罪の奴隷からの解放、こんな私でも神様の素晴らしい計画と目的の為に存在していることが分かりました。そして神様は私と子供を日本へ戻す計画を持っておられ、2007年年明けに帰国し、新しい生活をスタートすることになりました。このラスベガスは私にとって思い出の地となり、神様のお導きによって素晴らしい出会いがありました。これからは神様からのたくさんの知恵と聖霊様の働きによって、良き母クリスチャンとして日本でイエス様の愛と御言葉を伝えて行きたいです。

